平成 30 年 10 月 1 日
第 51 号
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院だより

いこいの森

患者さまを中心として、質の高いかつ安全な医療を提供します

地域医療連携について

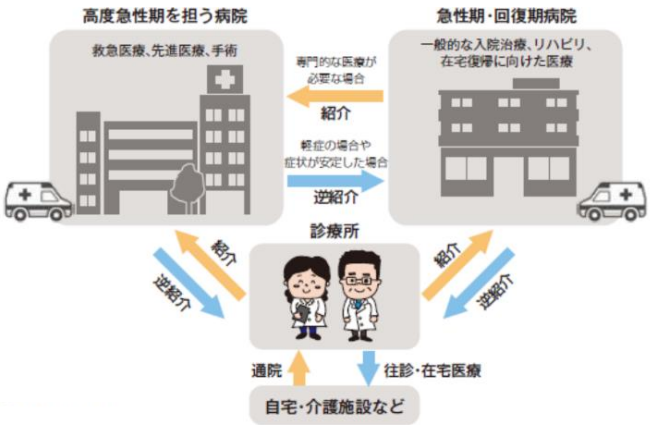
地域医療連携とは、地域にある病院や診療所が地域の医療事情に合わせて、役割を分担したり、それぞれが専門性を高めたりすることを指します。

医療機関には、規模や入院ベッドの有無、診療科の種類などで、それぞれ提供できる医療の機能があります。

《病診連携…病院と診療所、病病連携…病院同士、診診連携…診療所同士》

地域の医療設備・機器を共同利用したり、診療所の医師が病院で診察を行うこともあります。

診療所やクリニックは入院するほどではない病気やケガの治療、長い間薬を飲んだり、検査したりする必要のある病気の治療、予防接種、健康管理などを行います。外来診療をして、さらなる治療や検査が必要な患者さんは地域内の病院に紹介します。診療所の医師は「かかりつけ医」として、患者さんの全体を診て、必要に応じて専門医に紹介する、振り分け機能も担っています。



病院には、一般的な入院治療、手術を行う病院と高度な技術や機械が必要な病気やケガの治療、検査を行う病院があります。当院は高度急性期を担う病院にあたります。

病院の医師は、診療所より専門的な診療や入院診療を行います。また、回復してきた患者さんを診療所へ紹介（逆紹介）することもあります。

当院は地域医療支援病院として、承認されています。地域医療支援病院の役割には紹介患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む）、医療機器の共同利用、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修の実施などがあり、80%以上の紹介率等が承認要件となります。当院の過去３年間の紹介率は 81%～93%、逆紹介率は 60%～73%でした。

地域医療連携には、異なる機能を持つ医療機関が連携して、良い医療を効率よく提供することが目的にあります。地域医療連携が進むと、患者さんは適切な医療機関で継続的な診療を受けられ、待ち時間も減るというメリットもあります。

当院では今後も地域医療連携に積極的に取り組んでまいりますので、皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

病院機能評価について

当院の外来会計前の柱に病院機能評価の認定証が掲示されていることをご存知でしょうか？

病院機能評価とは、公益財団法人　日本医療機能評価機構が行っている、病院の機能を第三者の立場で評価する事業です。病院を対象に、組織全体の運営管理および提供される医療について、日本医療機能評価機構が中立的・科学的・専門的な見地から評価が行われます。

評価項目には次のような、さまざまな項目があります。○病院の運営　○医療安全　○感染制御　○医療の質改善　○療養環境の整備　○患者さんのプライバシーの確保　○入院診療の計画的な対応　○地域連携　○教育・研修　○病院危機管理　など

病院機能評価の認定を受けた病院は日本医療機能評価機構のホームページで公表され、認定証が発行されます。この認定証の有効期間は５年間となっており、当院は本年８月末に４回目となる審査を受けました。

患者さんにとってのメリットは、病院の提供する医療の質を判断する上での一つの目安になります。
病院にとってのメリットは、病院機能評価を通じて、病院の機能の再確認を行い、医療の質の改善に役立てていく効果もあります。
当院では、このような取り組みを通じて、今後ともより良い医療を提供できるように努力してまいります。

「旭区救急フェア 2018」を開催しました

平成 30 年９月９日(日)、二俣川駅に隣接する JOINUS TERRACE Ⅱ３階イベント広場において、「旭区救急フェア 2018」を開催しました。当院からは救命救急センターの医師・看護師、事務など合計８名が参加しました。

昨年は二俣川駅再開発に伴う工事のため、当病院内で開催しましたが、今年は新しい JOINUS TERRACE Ⅱのスペースで、横浜市医師会関係者による「医療相談、介護相談」も行われました。また、当院医師・看護師が協同してＡＥＤ（自動体外式除細動器）体験、心肺蘇生法の講習を行い、市民の皆さんに貴重な体験をしていただきました。横浜市消防局のマスコットキャラクター「ハマくん」も登場し、救急受診ガイドやケガの予防対策に関する冊子を配布して呼びかけを行い、お子様連れの方はマスコットキャラクターとの写真撮影など、ご家族で楽しまれていました。

このイベントは９月９日の救急の日を中心とした救急医療週間に救急車の利用に対する市民の正しい理解と認識を深めるとともに、応急手当及び予防救急の普及啓発活動を推進し、救命効果の向上とケガの予防を目的に実施されました。今後も当院はこのような活動にも協力して、地域貢献のお手伝いをしていきたいと思っています。

食事の塩分を減らすポイント

　この夏は猛暑が続き熱中症予防として塩分を摂取するようメディアで取り上げられていました。夏は、気温とともに体温も上昇するので、体は発汗によって体温を下げようとします。その汗には、水分だけでなく塩分も含まれており、この両方が失われることで脱水症、熱中症、熱射病へと症状が移行していきます。そのために水分、塩分の補給を上手に行なう必要がありました。

　気候が穏やかになり過ごしやすい季節になっています。

通常の生活において、1 日に何グラムまでの塩分摂取が望ましいのでしょうか？

日本人の 1 日あたりの平均塩分摂取量は男性 11.1g　女性 9.4g（厚生労働省の国民健康・栄養調査結果より）ですが、厚生労働省が推奨する 1 日の塩分量は男性 8g、女性は 7g です。また、高血圧学会が定める摂取基準は 1 日 6g、WHO(世界保険機関)が推奨する健康的な人の塩分摂取量は 1 日 5g となっています。

塩分を摂りすぎると血圧を上げる大きな原因になり、減塩をすすめる事で、様々な病気の予防にも繋がります。

日ごろの食生活で減塩を意識してみましょう。

減塩のポイント

①　食べる直前に味を付ける

②　旨味・香り・酸味を積極的に利用しましょう。

③　加工品・漬物・汁物は頻度や量に注意しましょう。

味噌汁 1～1.5g	ラーメン 6.0～8.0g	漬物 0.8g	干物1枚 1.5g	ハム1枚 0.5g

④　減塩の調味料や加工品を利用しましょう。

⑤　栄養成分表示の確認をしてみましょう

食塩相当量(塩分)は「食塩相当量」として記載されている商品もありますが、ナトリウム量として書かれている事が多くあります。

ナトリウムを食塩相当量に変換する計算式は下記になります。

【重要!!】

ナトリウム Na 量（mg）× 2.54 ÷ 1,000 ＝ 食塩相当量（g）

840m g　× 2.54 ÷ 1,000 ＝ 2.1g

簡単版　（暗算でもできる計算式）

ナトリウム Na 量（mg）÷ 400 ＝ おおよその食塩（g）

840m g　÷ 400 ＝ 2.1g

栄養部　清水朋子　飯塚尚子

～栄養相談室からのおしらせ～

糖尿病や腎臓病の食事療法はもちろんですが、食事が摂れない、食事が飲み込みづらい体重が減少し体力がない、栄養状態に不安がある等、管理栄養士が病状にあった食事、食品の選択や調理上の注意、栄養補助食品、宅配食などについて食事や食生活に対する総合的な栄養の指導をさせていただきます。

「栄養食事指導」は**予約制**となっておりますので、主治医・担当医にお声かけください。

総合相談部からのお知らせ

総合相談部では、入院中または外来診療中の患者さま、ご家族のご相談を承っています。ご相談内容については、秘密を厳守します。どうぞ、お気軽にご相談下さい。(ソーシャルワーク係、ホームケア係は、事前にご予約をお願いします。) ご相談先は以下の通りです。

【ソーシャルワーク係】利用できる社会保障・サービス・病院や施設のことを相談したい、医療費や生活費が心配、転院の相談など。

【ホームケア係(看護相談など)**】**介護の仕方が分からない、訪問看護を受けたいなど。

【地域医療連携係】近くの医院やクリニックを探したい、紹介状について知りたいなど。

【総合案内】受診の手続きを知りたい、院内のことについて知りたいなど。

【患者さま相談窓口】ご意見、ご要望があればお聞かせ下さい。

総合相談部の場所：
- ソーシャルワーク係、地域医療連携係(1 階正面玄関横)
- ホームケア係、患者さま相談窓口(1 階産婦人科外来横)
- 総合案内(1 階正面玄関)

当院は原則として「**初診紹介制**」となっています。初めて受診されるときは、地域医療機関（かかりつけ医等）からの**「紹介状」をお持ちください。** 初診時に予約制を実施している科もあります。詳しくは、ホームページまたは、総合案内、地域医療連携係へご確認下さい。

【当院の休診日】 日曜日、国民の祝日、第 1・3 土曜日、開学記念日(10 月第 2 土曜日)、年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)

発行：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 地域広報小委員会
〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1197-1 TEL：045-366-1111(代)

次回(第 52 号)は、平成 31 年 1 月発行予定です。